



元氣とタイムリーな情報を提供する

五十嵐レポート

発行:「町コン」五十嵐 勉 2018年05月21日 第870号「週刊五十嵐レポート」

人手不足。人の確保と育成。

ある会社のA社長の話。「成り行き人間と目標人間」を従業員に話した。独身時代は成り行き人間だった。しかし結婚して子供ができたとき、「このままでヤバイ」と思った。そこから成り行き人間から目標人間になっていった。会社を大きくしないと、そのためには自分が勉強しないといけない。勉強している人たちを会わないといけない。従業員ができると、いやな上司、いやなリーダーにはなりたくない。自分を磨くことをやらないといけない。

従業員も、結婚や子供ができるのが転機。このまま今の会社に居て、大丈夫か(生計が立てられるか)。ダメだと思ったら転職する。大丈夫であれば、今の会社に居て仕事にまい進する。A社長は独自の社員教育を進めている。

運送会社の話。運送業は人手不足。仕事はあるが、断ることが多い。運転手はキツイ。さらに事故を起こす危険もある。そして長時間労働。それらに見合う対価があるか。昔に比べ、給料は下がっている。新しく入る若者は、免許をとっても4トン車は乗れない。あえてトラックの免許をとってまで運転手になる人は少ない。人手不足により、運送会社は淘汰されていく。労使関係を変えていき、荷主(顧客)に対する運賃を上げて、運転手の給料を上げていかないと人を確保することはできない。今後、人の確保ができる運送会社が強くなり、生き残っていく。

会社を強くするには、人の育成が大事なる。人を採用しても辞めていっては元も子もない。運送会社の後継者は、社内の教育・訓練のために業務マニュアルを作成。それとともに5年先の長期経営計画を構想中。運転手が家族を持って、マイホームを手に入れられるごく普通の夢が実現できる。それが可能になる経営目標とそれを達成する戦略を立てる。

いくら綺麗事を言っても、同業他社や競争相手よりも粗利益の補給力が強くなる独自性を確立していなければ、従業員の夢を実現することができない。戦略実力と人を育てる独自の社内教育・訓練制度が生き残りの条件になってきた。

ちょっと
気になる出来事

5月17日(木)付、日経新聞「私見卓見」(船井総研/橋本直行氏)より。運送業へ助言。荷主(顧客)より運転手を探す方が大変。

どこの会社も20~30代をほしがる。ネットを使いこなす世代なのに、自社サイトを持たない運送業者が多い。仮に設けていても、「どこよりも安く運びます」「できる限り要望に応えます」といった荷主向けメッセージ。若者にはブラック企業としかみえない。

募集を未経験者に広げ、女性や週3日勤務者など多様な人材を受け入れる。事故に遭ったり、起こしたりするリスクがある。「親ブロック」「嫁ブロック」のハードルをかいくぐる対策が必要である。

最近、朝4時に出勤して午後3時に退社する朝型勤務が人気。保育園に子供を迎えにいき、家族と一緒に夕食を過ごす。運賃を上げなければ、給料は上がらない。配送ルートの効率化、待機時間の削減、長時間労働の是正。

今週の五十嵐レポートのテーマにどんぴしゃ。運送業だけではなく、人が集まりづらい中小企業にも当てはまる。



一口メモ
知識

いまの行為を喜べば

新入社員のときは苦しい。しかし、中堅になればなったで責任があつて苦しい。

出世しても、次の世代を育てるのは苦しい。退職したら、「今日は何をしようか」と退屈で苦しい。

老いて、体が動かなくなれば苦しい。病気になれば苦しい。死ぬのは苦しい。

このように、生きること自体は、決して楽ではありません。苦しいのです。そう覚悟するしかありません。

だから大切なのは将来ではなく、「いま」の行為に充実感と喜びを感じられるか否か、ということなのです。

「ブッダの教え一日一話」(PHP研究所/アルボムッレ・スマナサーラ)より

「戦略社長塾東京」小岩校 毎週日曜日・水曜日 午前10時~12時

「戦略社長塾東京」小岩校 土曜隔週(第2・第4) 午後2時~6時

「戦略社長塾東京」銀座校、五反田校、武蔵村山校、豊岡校 開講中。

㈱五十嵐コンサルティングオフィス 〒133-0051東京都江戸川区北小岩6-21-5

03-3659-7703 Fax 03-3659-7077 i-daruma@igarashireport.com

